

じどうしつだより No. 76 (2011. 7発行)

読んでみませんか 児童室がえらんだえほん

本の情報	内容
<p>『いっしょならもっといい』</p> <p>ルイス・スロボドキン作 木坂涼訳 偕成社 2011.2</p> <p>1110141197</p>	<p>ぼく、ひとりであそべるよ。でもね、ふたりならもっとたのしくなる。てがみもね、ぼくがかいて、よんでくれるがいるからたのしいんだよ。おみせやさんごっこも、ボールあそびも、かくれんぼも。そして、さんにん、よにん、もっとふえたら、もっともったのしくなるはず。</p>
<p>『くらやみえんのたんけん』</p> <p>石川ミツ子さく 二俣英五郎え 福音館書店 2011.2</p> <p>1110152388</p>	<p>ある日のゆうがた、こどもえんの教室にのこっていたつとむとたくは、でんきのスイッチを切りました。「わーい、くらやみえんだ。」わくわくしながらたんけんに出かけたふたりですが、みしっ、みしりとなるゆかの音や、くろいかげにおじけづいてしまいます。おむかえにきたおかあさんにふたりはいいいます。「ぼくたちくらやみえんのたんけんをしたんだ。そりゃこわかったの。ほんとだよ。」</p>
<p>『ちいさなちいさなおんなのこ』</p> <p>フィリス・クラシロフスキー文 ニノン絵 福本友美子訳 福音館書店 2011.3</p> <p>1110155755</p>	<p>むかしあるところに、ちいさなおんなのこがいました。ばらのきよりもちいさくて、ドアのとつてにもとどきません。きんじょのだれよりもちいさいのです。でも、おんなのこはすこしずつおおきくなっていき、いままでできなかったことができるようになっていきました。そしてとうとう、ちいさなおとうとができて、おんなのこはおねえさんになりました。</p>
<p>『エイミーとルイス』</p> <p>リビー・グリーソンぶん フレヤ・ブラックウッドえ 角田光代やく 岩崎書店 2011.5</p> <p>1110180210</p>	<p>エイミーとルイスはいつもいっしょ。ルイスにきてほしいとき、エイミーはママにおしえてもらったとくべつなことばで呼びます。ルイスも、エイミーにきてほしいとき、エイミーとおなじように呼びます。とつぜん、エイミー一家が、遠いところに引っ越すことになりました。はなればなれになって落ちこむふたり。なやんだ末、ルイスは、出せるかぎりのいちばん大きな声で呼んだら、エイミーに聞こえるかもしれないと思い、ちょうせんしてみることにしました。</p>
<p>『うずらのうーちゃんの話』</p> <p>かつやかおり作 福音館書店 2011.2</p> <p>1110134610</p>	<p>ぼくが幼稚園からもらってきた「うずら野うーちゃん」。ある日、猫とたたかったうーちゃんは、片足をなくしてしまいました。あんなに心配したことはありませんでした。おかあさんの看病により、うーちゃんは元気になりました。あんなにうれしかったことはありませんでした。ぼくは、うーちゃんがたつための練習をすることにしました。うーちゃんは一本足でもたてるようになり、どんどん歩くようになりました。</p>
<p>『森のみずなら』</p> <p>高森登志夫ぶん・え 福音館書店 2011.2</p> <p>1110146602</p>	<p>もりのなかに1本の大きなみずならの木がありました。みずならの木のまわりには、どうぶつたちがよくやってきます。秋になると、どうぶつたちはみずならのどんぐりをたべました。冬がきて、つぎの春がきて、長い年月がすぎたあと、みずならの木はよわってたおれてしまいますが、またさらに年月がすぎると…季節のうつり変わりと、いのちをつないでいくみずならの木をうつくしい絵で描いています。</p>